

高校生でもできる震災関連死を減らす方法はあるのか

573班

小野寺陽奈

畠山七海

小山菜津美

小野寺尚美

序論

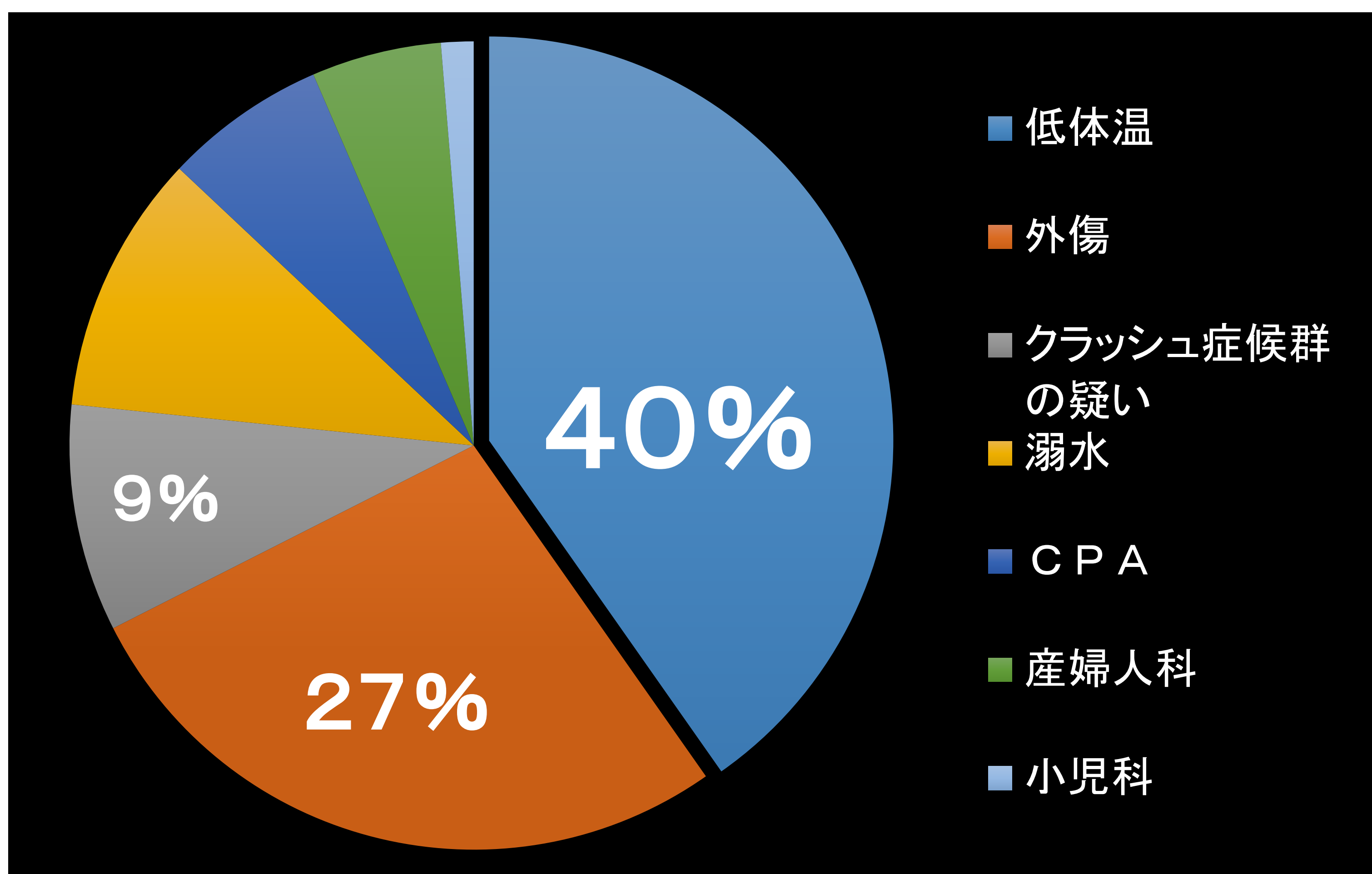
- ・東日本大震災で、震災と関連しているとみなされた死者数は862人もいた。(平成28年3月31日現在)
- ・この震災での特有疾患は、低体温症などがあり、助けることが出来た命があった。

仮説: 高校生でも震災関連死を減らす方法はある。

本論

～根拠1～
震災直後の負傷者の多くの症状は、助けることが出来た。

グラフ 発災48時間以内の外因性疾患の重症患者内訳 1)

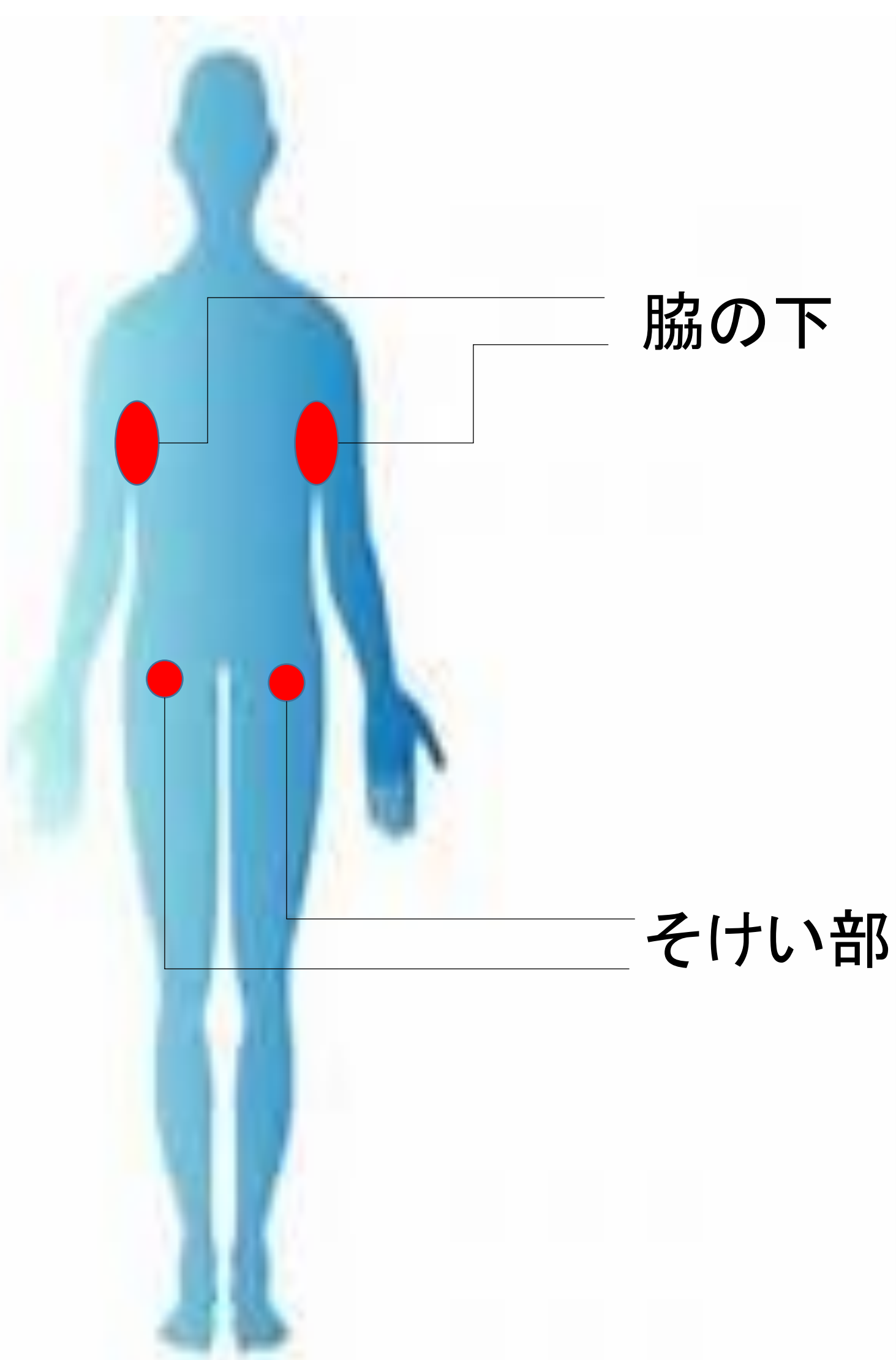


●低体温症は、外因性疾患のなかで、最も多く、40%だった。

～低体温症の応急処置～

- ・加温は深部をゆっくり温める。
- ・温かい飲み物を飲ませる。
- ・濡れた服を着替えさせる。
- ・毛布などで体を包む。
- ・患者と一緒に添い寝する。
- ・風の無いところ、濡れていないところなどの寒さの環境から移す。
- ・帽子や防寒着を着せる。

2)



●グラフより、低体温症は、外因性疾患の全体の4割となること
がわかる。これにより、低体温症の患者に処置することができれば、
震災関連死を大幅に減らすことができる。

●負傷者の処置は専門知識がないと難しいが、低体温症の応急
処置は簡単なので、誰にでもすることができる。

これにより、低体温症の応急処置をすれば、高校生
にも震災関連死を減らすことができる！

～根拠2～

医療スタッフや、ボランティアの方々がいるとは限らず、高校生
1人1人の力が大きくなるため。

図 避難所・仮設住宅で出来る3つのこと



心の
ケア

・話を聞く

いつもの
生活に似た
雰囲気
をどう
つくるか

・手洗いの呼び
かけ
・清掃
・換気

衛生

・炊き出しの手
伝い
・ともに食事を
取る

食事

●心のケアには話を聞いてあげることによって、十分な効果が
得られる。これにより、避難所生活によるストレス、精神面での
不安や不満を軽減できることから、**自殺対策**にもつながる。

●衛生面では、手洗いの呼びかけや清掃、換気をすることで、
衛生環境を改善し、病気になりにくい体づくりができる。このこと
から、**死因となる病気を防ぐ**ことができる。

●食事面では、炊き出しの手伝いをしたり、家族や知人と食事を
取ることで、生きるために必要な栄養素を取り、免疫力を高
めることができる。また、家族や友人と食事をする事で、コミュ
ニケーションをとることができ、**心身の健康につながる**ので**震災
関連死を防ぐ**ことができる。

これらは、高校生にもできる！

結論

私たち高校生は、大人と比べて専門知識などが少なく、できる
ことは限られている。しかし、基本的な応急処置や、避難所や仮
設住宅でいつもの生活に似た雰囲気をつくることで、高校生でも
震災関連死を減らすことができると結論づけた。

課題

震災が起きたとき、実際に高校生が行動することができるのか。
積極的に行動していけるような意識づくりをどのようにするのか。

参考文献

1) 石巻赤十字病院の資料による

2) www.gonzalezforschools.com

<https://www.ishamachi.com>

『ご協力』

石巻赤十字病院のみなさま

